終戦記念特集

太平洋戦争中の暮らし（前編）

６月広報で募集した『戦争中の暮らし』に、市民の方４名からお手紙をお寄せいただきました。誌面の都合上、前編・後編に分けて、皆さんにお届けします。

実際に戦争を体験された方の貴重な体験談から、戦争の恐怖や悲しみ、苦しみを若い世代に引き継ぎ、平和について考えていただければ幸いです。

※後編は９月号で予定していますが、誌面の都合により変更になる場合があります。

※お寄せいただいた手紙は、なるべく原文のまま掲載しています。

山地淑子（香北町日ノ御子、昭和８年生まれ）

夏の日、谷川へ妹と遊びに行った帰り、いつも立ち寄るところは、遠縁で小さい時に母を亡くした、言葉少なく机に向かっているお兄さんのところ。窓枠に背伸びしてあごをのせ、覗いてから帰ります。ある日、めずらしくお兄さんは、私の家へ見たこともない小さなカメラを持って、話し笑って帰りました。次の日、千葉県の少年戦車学校へ行っていなくなりました。私の叔父も師範学校へ行ったままでした。女の人も従軍看護婦や挺身隊とでいなくなり、次は老兵のお父さんに召集がきました。あの子、この子のお父さんを日の丸の旗を振り、列車を追って走りました。

私の父は、「生きて帰ると思うなよ」で始まる『軍国の母』のレコードをかけていたのが思い出されますが、家族は誰も近づきませんでした。

祖父母は田畑を耕し、お米は供出し、私達は麦や芋を食べました。疲れた母は夜に竹やりを持って、戦いの練習に集まり、私達は学校から農家の手伝いや桑の木の皮などを集めました。兵隊さんの服を作るためと聞かされました。

山深い私のところへも戦争の足音が近づいた。となりの村へ遠足に行ったとき、下の道から列車の音が聞こえてきたので、良く見えるところへ走って集まった。白衣に赤い十字のマークの兵隊さんばかり、私達を見ることもなく臨時列車は白い煙を長く流し、朝倉の国立赤十字病院へ行った。遠足の作文に私は何を書いたか覚えていませんが、先生が私の作文を読んでいたのが忘れられません。

戦地より軍事郵便と大きく印がおされた色あせた小さな葉書は、古里の想いがいっぱいで今も私の日記帳から出る事はありません。

山地さんは、５人兄弟の長女として、大豊町で生まれました。戦況が厳しくなるにつれて、近所の人たちが次々と戦地へ赴むき、その度に日の丸の旗を振って見送ったことをよく覚えているとのことでした。作文中にある、『お兄さん』や『叔父さん』も行ったきり帰ってくることはなかったそうです。

戦時中、日本が有利に戦っていると国からの情報を信じていた山地さんは、遠足のときに赤十字マークの兵隊さんが乗った臨時列車を目にします。兵隊さんは一様にうなだれ、悲壮感が漂い、戦争が有利に進んでいるとはとても思えない光景であったと言います。心がすごく揺さぶられ、その遠足の日記には何を書いたかも覚えていないとのことでした。

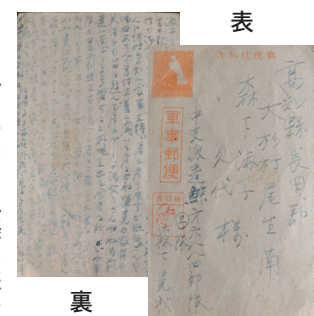
▶戦地に行った父親から「子ども達の写真を送ってほしい」と言われ、高知市の写真館で撮影した写真。

「実際、父のもとにたどり着いたのかは分かりませんけどね」と山地さんは語られた。

（一番左が山地さん）

表　裏

▶山地さんの日記帳に挟んである『軍事郵便』という大きな判が押された戦地の父親からの手紙。教育熱心であった父親から「勉強しているか」「風邪はひいてないか」と小さい字でびっしりと子ども達への思いが綴られています。

ご尊父は、終戦の５日前に南の島で戦死されています。

上村育子（土佐山田町西本町、昭和７年生まれ）

父が台湾銀行の残務整理のため、昭和21年末（中学２年生の時）引き揚げとなりました。

船の中では畳１枚に５人が寝起きすることになり、船酔いもあってトイレにいくこともできませんでした。４～５日後、やっと佐世保に到着すると早速、ＤＤＴ（衛生害虫駆除剤）をかけられました。

ここで、悲しい事実を知ることになります。満州方面からの引き揚げの女性たちは身を守るため、みんな丸坊主になっていたのです。引き揚げ列車は窓から出入りするほど混雑していました。

一人の持ち帰り金は千円でしたので、以後、私たちは食べることに非常に苦労しました。友人のお弁当の銀メシがうらやましくて、今でも私は麦飯が食べられません。父が何年も仕事をしなかったので、私は３才の妹の母代わりをし、それから母（北村万菊）の奮闘が始まったのです。

私は悲しい思いをしたからこそ90才の今を日々感謝しながら暮らしております。

上村さんは、昭和７年に台湾の基隆で生まれました。小学１年生のときに、軍属として父親が海南島へ行ったため、母親の里である天坪村と高知市で昭和17年まで過ごします。昭和20年に終戦となりましたが、昭和21年末まで台湾に残り、引き揚げました。

▶昭和20年に台湾で撮影した家族写真（左から４人目が上村さん）

▶台湾の小学校で撮影したクラス写真。１クラスに約60人、３クラスあったそうです。

日本に引き揚げになった後、上村さんはこの写真に写っているクラスメートほぼ全員を見つけ出し、アルバムを作成しています（ＮＨＫにも取材されました）。

「台湾の人はいい方ばかりで、引き揚げ後も何度も台湾へ行きました」と語ってくれました。

香美市の平和活動

非核・平和宣言都市

核兵器の廃絶と平和を願う全ての人々と相携えて行動することを決意し、平成18年5月25日、『非核・平和都市』宣言を行い、『日本非核宣言自治体協議会』に加入しました。

平和首長会議への加盟

平成22年1月1日に『核兵器廃絶に向けての都市連帯推進計画』に賛同する世界各国の都市で構成されている平和首長会議に加盟しています。

ヒロシマ・ナガサキ被爆ポスター展

毎年開催しており、今年も8月1日～25日まで、市役所1階ロビー・香北支所・物部支所で『ヒロシマ・ナガサキ被爆の実相等に関するポスター展』を開催します。

黙とうをささげましょう

広島原爆忌
8月6日午前8時15分
長崎原爆忌
8月9日午前11時2分
終戦記念日
8月15日正午

香美市戦没者追悼式

香美市では、毎年、戦没者の追悼式を5月に行っています。

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、10月7日に行う予定になっています。

▶一昨年の追悼式の様子